


# 電経新聞

購読料 年間26,400円  
 発行所 電経新聞社  
 編集・営業・総務  
 〒160-0023 東京都新宿区西新宿  
 7-18-12 NOVA 西新宿ビル  
 TEL (03) 5937-5480  
 FAX (03) 5937-5475  
 発行人 北島 圭  
<https://www.denkeishimbun.co.jp>



Alcatel-Lucent  
[www.alcatel-lucent.co.jp](http://www.alcatel-lucent.co.jp)

## ニュースの窓

電線・電柱などの設備点検をサポート  
 仮眠ソリューションを共創  
 第17回光通信工事技能競技会

(2面)  
 (3面)  
 (4面)

## 地域DX

NTT西日本グループ  
 が打ち出す新たな一手

上

# ビジョン構想から社会実装へ 地域創生C.O.デザインカレッジを開講

「地域創生」を事業ミッションに掲げるNTT西日本はグループ会社の地域創生C.O.デザイン研究所を中心に地域創生における実践ポイントを探求している。その営みをさらに加速させるため「地域創生C.O.デザインカレッジ」を開講した。

地域創生C.O.デザイン研究所の村上秀則所長は「NTT西日本として地域創生を事業ミッションに位置付けて、4年が経過している。西日本エリア30府県にはNTT西日本の支店があり、支店長が支店長が解決すべき地域課題を地域の皆さまとともに設定して、その4年間、各支店が解決すべき地域課題を地域の皆さまと一緒に進めてきた。私どもの力だけでは、多くの皆さまの知恵を同じテーマに向けていきたい」と述べる。

南雲氏は「日本ではデジタルの力を活用してスマートシティを進めることで、社会課題解決と地域創生を一つにしたまちづくりが行われようとしている」と言及。その上で「スマートシティはあくまでも手段であり、目的である市民生活の幸福を高めるために、主観的な指標である幸福感をLWC指標(Livable Well-Being 指標)により可視化し、改善サイクルを回すことが重要である」と述べた。

現在、デジタルとフィンテックが重なる人が求められている」とが求められている」との見解を述べた。

またトークセッション「汗かき奮闘記」では南雲氏をはじめ、熊本大学大学院先端科学部田中尚人准

教授、熊本大学大学院自然科学研究科(田中尚人研究室R3年度修了)の池田昌弘氏、事業構想大学院大学事業構想研究所の河村昌美教授、地域創生C.O.デザイン研究所の渋谷勝也主幹研究員が登壇し、熊本の取り組みを中心に積極的な住民参加により地域共創を促進し、テーマを活用した持続的なスマートシティの実現に向けた議論が繰り広げられた。

地域創生C.O.デザイン研究所C.O.デザイン



トークセッションの様子(8月27日に開催された第3回オープンカレッジにて)

地域創生C.O.デザインカレッジの開設を3回開催した。第1回のテーマは「持続可能な観光に向けて変わりはじめる次世代観光まちづくり」。第2回は「次産業・地域循環型社会」自然資本を活用した森林・林業DXによるカーボンニュートラル社会の実現。第3回は「スマートシティ・地域共創によるまちづくり」住民主体が紡ぎ出す魅力ある地域社会の実現をテーマに開催された。

地域創生C.O.デザイン研究所の村上秀則所長は「NTT西日本として地域創生を事業ミッションに位置付けて、4年が経過している。西日本エリア30府県にはNTT西日本の支店があり、支店長が支店長が解決すべき地域課題を地域の皆さまとともに設定して、その4年間、各支店が解決すべき地域課題を地域の皆さまと一緒に進めてきた。私どもの力だけでは、多くの皆さまの知恵を同じテーマに向けていきたい」と述べる。

南雲氏は「日本ではデジタルの力を活用してスマートシティを進めることで、社会課題解決と地域創生を一つにしたまちづくりが行われようとしている」と言及。その上で「スマートシティはあくまでも手段であり、目的である市民生活の幸福を高めるために、主観的な指標である幸福感をLWC指標(Livable Well-Being 指標)により可視化し、改善サイクルを回すことが重要である」と述べた。

現在、デジタルとフィンテックが重なる人が求められている」とが求められている」との見解を述べた。

またトークセッション「汗かき奮闘記」では南雲氏をはじめ、熊本大学大学院先端科学部田中尚人准

教授、熊本大学大学院自然科学研究科(田中尚人研究室R3年度修了)の池田昌弘氏、事業構想大学院大学事業構想研究所の河村昌美教授、地域創生C.O.デザイン研究所の渋谷勝也主幹研究員が登壇し、熊本の取り組みを中心に積極的な住民参加により地域共創を促進し、テーマを活用した持続的なスマートシティの実現に向けた議論が繰り広げられた。

地域創生C.O.デザイン

地域創生C.O.デザイン研究所C.O.デザイン



村上所長



中村部長

「地域創生C.O.デザイン研究所の村上秀則所長は「NTT西日本として地域創生を事業ミッションに位置付けて、4年が経過している。西日本エリア30府県にはNTT西日本の支店があり、支店長が支店長が解決すべき地域課題を地域の皆さまとともに設定して、その4年間、各支店が解決すべき地域課題を地域の皆さまと一緒に進めてきた。私どもの力だけでは、多くの皆さまの知恵を同じテーマに向けていきたい」と述べる。

南雲氏は「日本ではデジタルの力を活用してスマートシティを進めることで、社会課題解決と地域創生を一つにしたまちづくりが行われようとしている」と言及。その上で「スマートシティはあくまでも手段であり、目的である市民生活の幸福を高めるために、主観的な指標である幸福感をLWC指標(Livable Well-Being 指標)により可視化し、改善サイクルを回すことが重要である」と述べた。

現在、デジタルとフィンテックが重なる人が求められている」とが求められている」との見解を述べた。

またトークセッション「汗かき奮闘記」では南雲氏をはじめ、熊本大学大学院先端科学部田中尚人准

教授、熊本大学大学院自然科学研究科(田中尚人研究室R3年度修了)の池田昌弘氏、事業構想大学院大学事業構想研究所の河村昌美教授、地域創生C.O.デザイン研究所の渋谷勝也主幹研究員が登壇し、熊本の取り組みを中心に積極的な住民参加により地域共創を促進し、テーマを活用した持続的なスマートシティの実現に向けた議論が繰り広げられた。